日本建築学会技術報告集　第16巻　第32号，315-320，2010年2月
AIJ J. Technol. Des. Vol. 16, No.32, 315-320, Feb., 2010

大学と文化センターとの連携講座による地域資源単語帳の開発

THE DEVELOPMENT OF LOCAL RESOURCES WORDBOOK BY THE COOPERATION COURSE WITH UNIVERSITY AND THE CULTURAL CENTER

納谷和孝 ――― ＊1　志村秀明 ――― ＊2
赤堀弘幸 ――― ＊1　黒崎かをる ――― ＊1
島田修佑 ――― ＊1　松島裕司 ――― ＊1

Kazutaka NAYA ――― ＊1　Hideaki SHIMURA ――― ＊2
Hiroyuki AKAHORI ――― ＊1　Kaworu KUROSAKI ――― ＊1
Shusuke SHIMADA ――― ＊1　Yuji MATSUSHIMA ――― ＊1

キーワード：
地域資源単語帳，連携，文化センター，サポーター，大学，ワークショップ

Keywords:
Local resources wordbook, Cooperation, Cultural Center, Supporter, University, Workshop

The purpose of this paper is to investigate and analyze the course that had been held jointly local people, Cultural Center and University in Kameido, Koto-ku, Tokyo.
The important point of this course is to develop and spread the method of finding and sharing the local resources which is used in a long term in the town. “Kameido’s local resources Wordbook (Kame-tan)” was made in the course.
Finding are; (1) “Kame-tan” was made by the collaboration work of the course participant; (2) Local people evaluated “Kame-tan” highly.
However, there was a problem that cognitive degree of the course is low.

１章　研究の背景と目的

１－１　研究の背景と目的

近年、身近な生活圏を対象としたまちづくり活動が盛んになりつつある中で、それらの活動の発端や基盤となる身近な地域資源[注1)]の重要性が再認識されている[1)]。そこで地域資源を発見し、共有するための手法やツールが開発されているが、計画策定のためのワークショップ（以下：ＷＳ）で用いられるものがほとんどである[2)3)4)]。計画策定とは関係なく、長期間まちで使用されることを前提としたツールや手法の開発は少ない[5)]。

ところで地域の中の様々な主体が連携する活動が増えている[注2)]。まちづくりにおいては、様々な主体が連携することが考えられるが、文化センターや大学等は、市民活動を長期間にわたって下支えする主体として重要な役割を持ち得ると言えよう。これらの主体が住民と連携して、地域資源を発見し、共有するための手法やツールを開発することは、様々な地域で実践できる可能性がある。

本報告は以上のような視点から、住民と文化センターや大学等が連携して、長期間にわたってまちで使用される「地域資源の発見・共有」のための手法を開発、普及することを主眼としている。

そこで東京都江東区亀戸地区において、住民と文化センター、大学が連携して「亀戸地域資源単語帳」（以下：「かめたん」）を作成した連携講座（以下：講座）を対象として、その取り組みについて報告すると共に、作成過程における各主体の作業特性、及び講座と「かめたん」に関する評価や意向、意義について明らかにする。

１－２　研究対象地区の概要

亀戸地区（亀戸 1～9 丁目）の地図を図 1 に示す。江東区の北端にあり、旧中川や北十間川、横十間川等に囲まれている。古くから荒川河口の船舶交通の要衝であったため、2～5 丁目では寺社が多い。7、8、9 丁目はかつて工場や倉庫が建ち並んでいたが、現在では大規模なマンションが建ち並んでいる。1、2、6 丁目は、戦後復興事業で基盤整備がされたが、5 丁目を中心として細街路も多い。ＪＲと東武の亀戸駅は明治通りの東側にあり、周辺には商店街が多い。また、東京都からは亀戸地区の西にある墨田区錦糸町と共に「副都心」に指定されている[注3)]。

１－３　研究の方法

「かめたん」を作成した亀戸文化センター（以下：文化センター）の講座を研究対象とする。これには筆者らの大学研究室が講座の企画と運営に参画した。講座には、亀戸地区やその周辺地区の住民が参加した。

調査にあたり、各講座の記録と成果、企画段階と運営に関する記録を参照した[注4)]。また、講座の企画・運営に関わった文化センター職員に対してヒアリング調査を行った。更に受講生と「かめたん」

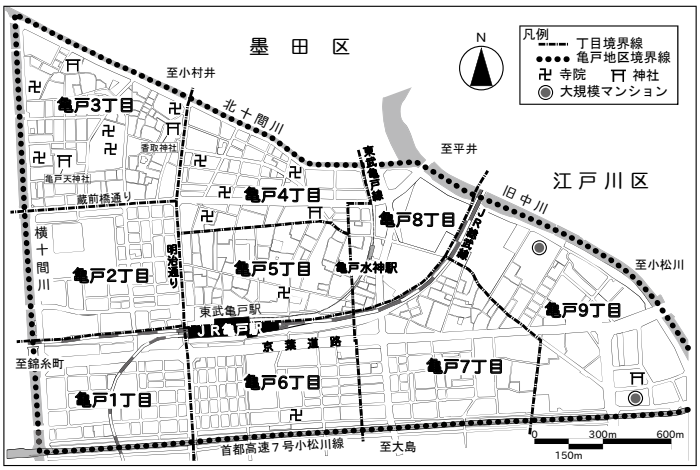


図１　亀戸地区の概要

*1　芝浦工業大学大学院工学研究科建設工学専攻　修士課程
（〒135-8548　東京都江東区豊洲 3-7-5）
*2　芝浦工業大学工学部建築学科　准教授・工博

*1　Graduate Student, Shibaura Institute of Technology
*2　Assoc. Prof., Dept. of Architecture Institute of Technology, Dr. Eng.

購入者へのアンケート調査を行った。

本報告の構成は、まず「かめたん」と講座の概要について提示する。次に、「かめたん」に掲載された地域資源の収集の経過、及びその特徴を明らかにする。第 3 に、講座での「かめたん」完成までの各主体の作業状況を分析することで、各主体の作業特性を明らかにする。第 4 に、受講生と「かめたん」購入者にそれぞれ行ったアンケートの結果から、「かめたん」に対する評価や意向、「かめたん」購入者の傾向について明らかにする。まとめとして、講座での各主体の作業分担を整理すると共に、講座の意義について考察する。

２章　「かめたん」と講座の概要

本章では、「かめたん」と講座の概要を提示する。併せて、講座に関わった各主体の関係について整理する。

２－１　「かめたん」の概要

「かめたん」の概要を図 2 に示す。「かめたん」は亀戸地区の 143 の地域資源を掲載している単語帳形式のものである。表面に地域資源の写真、裏面に地域資源の説明が約 100 文字程度で書かれている。付属品の「地域資源地図[注5)]」には各地域資源の場所が示されている。

「かめたん」は、2008 年 8 月に完成し、一部 500 円として亀戸文化センターで販売が開始された。2009 年 3 月現在、約 400 部が販売済みである。

２－２　講座の概要

講座の流れを図 3 に示す。講座は、亀戸のまちづくりに貢献する人材「まちのサポーター」（以下：サポーター）を養成することを主目的として、2006 年度から 2008 年度まで開講された。2006 年度「亀戸のまち再発見」では、亀戸の歴史を勉強してから「まち歩き」を行い、情報地図[注6)]を作成した。2007 年度「亀戸のまちのサポーターになろう！」では、亀戸 1～6 丁目を中心として「まち歩き」を行い、「かめたん」の原案を作成した。また、受講生がサポーターになるトレーニングとして、一般市民が参加する「まち歩きＷＳ」を企画・実施した。2008 年度講座「亀戸のまちのサポーターになろう 2[注7)]」では、亀戸 7～9 丁目を重点的に「まち歩き」し、「かめたん」を完成させた。当初「かめたん」はサポーターが地域資源を認知するためのツールとして作成されたが、2007 年度講座後の文化センターの紹介展[注8)]で、「かめたん」が好評であり地域の潜在的な需要を掘り起こすことができたため、2008 年度講座後に販売されることになった。

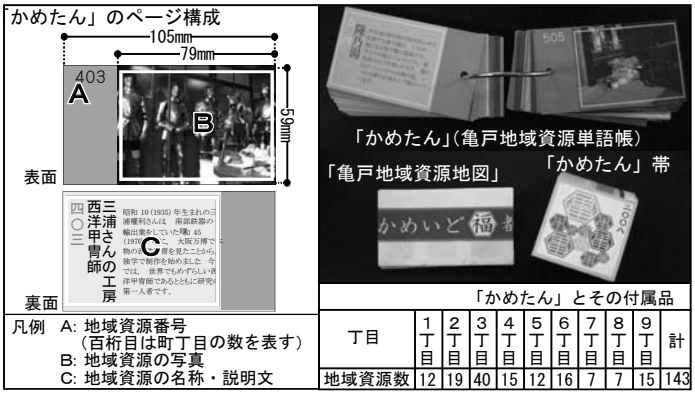
２－３　講座における各主体の関係

講座における各主体の関係と受講生について図 4 に示す。講座は文化センターが主催し、筆者らの研究室から学識経験者が講師を、学生がスタッフを務めた。2006 年度の講座は文化センターと講師が企画したが、2007 年度の講座からは文化センターと講師、スタッフが企画した。「まち歩きＷＳ」については受講生も加わり企画した。

受講生は 2006、2007、2008 年度にそれぞれ 24 人、14 人、12 人であり、2007 年度には 7 人が修了し、サポーターとなった。この 7 人のサポーターは、2008 年度講座の企画にも参加した。

受講生とサポーターの一覧を表 1 に示す。継続受講生も数名おり、最終的に 12 人のサポーターが育成された。

３章　「かめたん」に掲載された地域資源



丁目	1丁目	2丁目	3丁目	4丁目	5丁目	6丁目	7丁目	8丁目	9丁目	計
地域資源数	12	19	40	15	12	16	7	7	15	143

図２　「かめたん」の概要

図３　講座の流れ

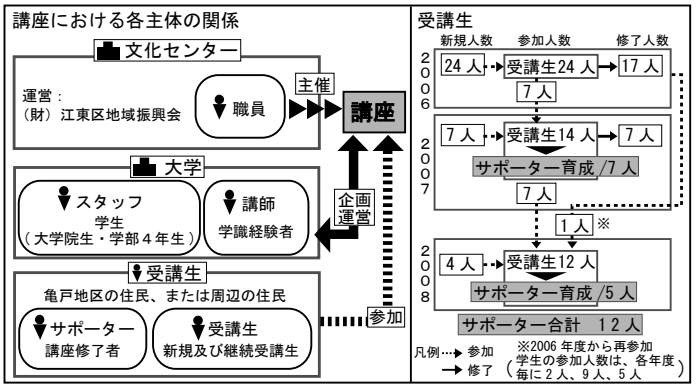


図４　講座における各主体の関係と受講生

本章では、「かめたん」に掲載された地域資源の収集の経過と、種別の特徴を明らかにする。

３－１　地域資源の収集

１）地域資源収集の経過

地域資源は講座での活動や情報交換から収集された。その経過を図 5 に示す。2006 年度に 26、2007 年度に 99、2008 年度に 36 が収集され、反対に 2007 年度に 2、2008 年度に 16 削除された。最終的な地域資源の数は 143 となった。その一覧を表 2 に示す。

表１　受講生・サポーターの一覧

名前	受講年度 06	07	08	参加形態	備考	名前	受講年度 06	07	08	参加形態	備考
6・a	●			a		6・t	●	●	○	c	
6・b	●			a		6・u	●	●	○	c	建築専門家
6・c	●			a		6・v	●	●	○	c	NPO所属※
6・d	●			a		6・w	●	●	○	c	亀戸観光協会
6・e	●			a		6・x	●		●	b	
6・f	●			a		7・a		●		a	
6・g	●			a		7・b		●		a	
6・h	●			a		7・c		●		a	
6・i	●			a		7・d		●		a	
6・j	●			a		7・e		●	○	c	
6・k	●			a		7・f		●	○	c	
6・l	●			a		7・g		●	○	c	地域雑誌編集長
6・m	●			a		8・a			●	a	
6・n	●			a		8・b			●	a	
6・o	●			a		8・c			●	a	
6・p	●			a		8・d			●	a	
6・q	●	●		b	大学院生	凡例：a:新規受講生（24人） b:継続受講生（4人） c:サポーター（7人/最終的に12人）					
6・r	●	●		b	NPO所属※						
6・s	●	●		b	NPO所属※						
※NPOとは「江東区の水辺に親しむ会」を指す						講座参加/●：受講生　○：サポーター					

※継続受講生とは、サポーターにならなかったが、継続して講座に参加した受講生を指す

表２　「かめたん」に掲載された地域資源の一覧

番号	地域資源の名称	種別	入手元	番号	地域資源の名称	種別	入手元
101	高架下壁画	工作物	まち歩き	401	割烹升本	店舗関係	受講生
102	駅前歩道橋	工作物	まち歩き	402	浄心寺	寺社関係	受講生
103	佐野味噌醤油店	店舗関係	まち歩き	403	西洋甲冑師三浦さんの工房	店舗関係	まち歩き
104	五之橋	工作物	まち歩き	404	水神社	寺社関係	まち歩き
105	竪川橋梁	工作物	まち歩き	405	水神森地域安全センター	工作物	まち歩き
106	竪川護岸ギャラリーシリーズ	工作物	まち歩き	406	止水板の名残	工作物	まち歩き
107	旅所橋	工作物	まち歩き	407	江東区立第二亀戸中学校	学校	意見交換
108	江東区立第三亀戸中学校（おいてけ堀跡）	学校	文化センター	408	常光寺	寺社関係	文化センター
				409	さとうパン	店舗関係	意見交換
109	ドラム缶発祥の碑	碑・像	文化センター	410	石井神社のおしゃもじ様	寺社関係	まち歩き
110	ハーレーダビッドソン	店舗関係	文化センター	411	宝蓮寺	寺社関係	文化センター
111	アンフェリシオン	店舗関係	文化センター	412	彩り硝子工芸	店舗関係	まち歩き
112	貨物線と壁面緑化	史跡	まち歩き	413	東覚寺	寺社関係	文化センター
201	亀戸駅バスターミナル	工作物	受講生	414	江東区立香取小学校	学校	意見交換
202	カメリアプラザ	工作物	文化センター	415	北十間川	河川	まち歩き
203	HANEKAME'92	工作物	文化センター	501	亀戸駅	工作物	受講生
204	水位表示モニュメント	工作物	文化センター	502	亀戸餃子	店舗関係	まち歩き
205	鳥居ローソク本舗	店舗関係	まち歩き	503	室井時計店	店舗関係	文化センター
206	裏通りの敷石	工作物	まち歩き	504	隆乃湯	店舗関係	まち歩き
207	江東区立第一亀戸小学校	学校	意見交換	505	米屋のアイドル犬	その他	まち歩き
208	植十間川	河川	意見交換	506	東武亀戸線トンネル	工作物	まち歩き
209	船からの荷揚げ用鉄柱	工作物	まち歩き	507	森岡提灯屋	店舗関係	受講生
210	第1回まちなみ景観賞受賞記念碑	碑・像	まち歩き	508	グリムハウス（三好屋）	店舗関係	まち歩き
211	亀戸餃庄跡	碑・像	まち歩き	509	ファームイン	店舗関係	まち歩き
212	日清紡績創業の碑	碑・像	まち歩き	510	亀戸五丁目公園	公園	まち歩き
213	配水池の放水口	工作物	まち歩き	511	水神小学校	学校	まち歩き
214	日清紡績工場のレンガ塀破片	工作物	まち歩き	512	ギャラリー凛	店舗関係	まち歩き
215	東京カットグラス工業協同組合ショールーム	店舗関係	受講生	601	自転車専用道路	工作物	受講生
				602	アフラックペアレンツハウス	工作物	まち歩き
216	押上せんべい本舗	店舗関係	文化センター	603	東京大排水・九龍城	店舗関係	まち歩き
217	但元いり豆本店	店舗関係	まち歩き	604	さかさ馬の袋小路	工作物	まち歩き
218	エビスヤ	店舗関係	文化センター	605	サンストリート亀戸	店舗関係	受講生
219	歩行者天国	店舗関係	受講生	−1	貧乏神神社 亀戸分社	寺社関係	受講生
301	船橋屋	店舗関係	まち歩き	606	江東区立第二亀戸小学校	学校	意見交換
302	飯沼理容店	店舗関係	まち歩き	607	亀戸六東町会会館	工作物	まち歩き
303	馬頭観音	碑・像	まち歩き	608	城東消防署	工作物	まち歩き
304	鼈甲職人	店舗関係	まち歩き	609	富山湯	店舗関係	受講生
305	亀戸天神社	寺社関係	意見交換	610	グラスルーツ	店舗関係	受講生
−1	撫牛	碑・像	まち歩き	611	自性院	寺社関係	受講生
−2	臥竜石	碑・像	まち歩き	612	竪川人道橋	史跡	まち歩き
−3	機寸塚（マッチ塚）	碑・像	まち歩き	613	街中のお稲荷さん	寺社関係	受講生
−4	洋食の碑	碑・像	まち歩き	614	飛行機のある家	工作物	まち歩き
−5	筆塚	碑・像	まち歩き	615	旧千葉街道石碑	碑・像	文化センター
−6	歌川豊国の碑	碑・像	まち歩き	701	内野ベーカリー	店舗関係	まち歩き
−7	塩の犬神	碑・像	まち歩き	702	吉實（よしざね）	店舗関係	まち歩き
−8	塩原太助の石灯籠	碑・像	まち歩き	703	江東区立亀戸図書館	その他	まち歩き
306	亀三自治会館	工作物	まち歩き	704	竪川河川敷公園	公園	まち歩き
307	天神湯	店舗関係	まち歩き	705	魚鶴	店舗関係	まち歩き
308	龍眼寺（りゅうげんじ）	寺社関係	まち歩き	706	亀七南会館	工作物	学生
309	JOYMARK DESIGN Co.Ltd	店舗関係	文化センター	707	ラケットショップRBTイチムラ	店舗関係	まち歩き
310	天祖神社	寺社関係	まち歩き	801	末広湯	店舗関係	まち歩き
311	祐天堂	寺社関係	受講生	802	公園前の駄菓子屋さん	店舗関係	受講生
312	梅屋敷跡	史跡	文化センター	803	亀戸水神駅	工作物	受講生
313	桝江戸一の社屋	店舗関係	受講生	804	七福交通	工作物	受講生
314	入神明宮跡	史跡	文化センター	805	小原橋	工作物	まち歩き
315	くらもち珈琲	店舗関係	文化センター	806	亀島（旧中川のビオトープ）	工作物	学生
316	光明寺	寺社関係	文化センター	807	亀戸中央公園	公園	まち歩き
317	旬香庵前野屋	店舗関係	受講生	901	江東区立亀戸中学校	学校	文化センター
318	亀戸天神ライティングハウス	店舗関係	文化センター	902	太洋化学工業	その他	まち歩き
319	普門院	寺社関係	まち歩き	903	亀戸浅間神社	寺社関係	まち歩き
320	Wood Shop　角重	店舗関係	意見交換	−1	都電跡	碑・像	まち歩き
321	福地写真館	店舗関係	文化センター	−2	鳥居	碑・像	まち歩き
322	パルファンキムラヤ	店舗関係	まち歩き	−3	六ツ目地蔵	碑・像	受講生
323	ペットのコジマ本店	店舗関係	まち歩き	904	城東社会保険病院	工作物	受講生
324	山長	店舗関係	受講生	905	逆井橋（逆井の渡し跡）	工作物	まち歩き
325	ヤマヤリカーステーション	店舗関係	まち歩き	906	亀小橋	工作物	まち歩き
326	香取神社	寺社関係	まち歩き	907	水辺に面した集会所	工作物	まち歩き
−1	亀戸大根の碑	碑・像	まち歩き	908	亀戸九丁目緑道公園	公園	受講生
−2	亀が井の碑	碑・像	まち歩き	909	江東区立浅間竪川小学校	学校	文化センター
−3	土鍾	寺社関係	まち歩き	910	しみ抜き工芸　青山	店舗関係	まち歩き
−4	道祖神祭具宝船	寺社関係	まち歩き	911	ふれあい橋	工作物	まち歩き
−5	こんにゃくみこし	寺社関係	受講生	912	旧中川	河川	まち歩き
327	竜光寺	寺社関係	まち歩き	※地域資源番号の百桁目は各1～9丁目を示す			
		種別）寺社関係　学校　店舗関係　史跡　公園　河川　工作物　碑・像　その他					

２）地域資源の入手元

地域資源の入手元について図 6 に示す。講座での活動「まち歩き」によるものが 85 で 60%を占めていた。年度毎にみても、2006 年度は全て講座での「まち歩き」、2007 年度、2008 年度では半分以上が講座での「まち歩き」であった。講座での活動が地域資源の入手に役立っていたと言える。

次に文化センターからの情報が 15%を占めていた。文化センターの様々な取組みの蓄積[注9]が、地域資源の入手に役立っていた。特に 2007 年度では 25%が文化センターからの入手であった。

また、受講生からの情報も同様に 17%を占めていた。日頃から亀戸で生活している受講生からの情報が、地域資源の入手に役立っていたと言える。特に 2008 年度では 25%を占めていた。

講座での「意見交換」は 8%であったが、これは表 2 にある通り、学校や河川、橋であり、「意見交換」によって地域資源に含めることになった。2008 年度には 19%を占めており、講座での意見交換が活発化していたと考えられる。

大学スタッフは 2%のみであった。大学は地域資源の入手元としては直接的には役立っていなかった。

３）作成過程で削除された地域資源

収集されながらも削除され、「かめたん」に掲載されなかった地域資源を表 3 に示す。2007 年度に 2、2008 年度には 16 で合計 18 が削除された。削除された地域資源の理由は、「平凡過ぎる」が 6、「廃業・休業」が 4、「掲載拒否」が 3 と多かった。地域資源は身近な存在故に、価値判断が分かれる。収集されながらも最終的に「平凡過ぎる」と判断されることがある。また、「廃業・休業」のように、時と共に状況変化があり得る。更に私有物であることも多く、所有者の「掲載拒否」が起こっていたことが分かった。

表３　削除された地域資源

丁目	地域資源の名称	入手元	削除理由	丁目	地域資源の名称	入手元	削除理由
1－	豆腐屋	まち歩き	掲載拒否	5－	金城湯跡	まち歩き	廃業・休業
1－	光東湯	文化センター	廃業・休業	5－	質屋	まち歩き	平凡
1－	亀戸西公園	まち歩き	平凡	5－	かねふじ	まち歩き	廃業・休業
1－	清水橋	文化センター	亀戸地区外	5－	駅前宝くじコーナー	文化センター	平凡
1－	竪川第一公園	受講生	平凡	6－	カラスの巣	まち歩き	資源の消滅
3－	服の仕上げ屋さん	まち歩き	廃業・休業	6－	竪川護岸ギャラリー	文化センター	資源の統合
3－	天満屋	まち歩き	資源の入替	3－	坂本八百屋	まち歩き	掲載拒否
3－	やきとり屋台	受講生	不定期	6－	近江屋米店	まち歩き	掲載拒否
4－	車のアーティストのいる営業所	まち歩き	平凡	凡例：平凡（6）廃業・休業（4）掲載拒否（3） 資源の統合（1）資源の消滅（1）資源の入替（1） 亀戸地区外（1）不定期（1）/（）内は対象の数			
5－	亀戸5丁目第二公園	まち歩き	平凡	※ハッチ部分のみ2007年度に削除された地域資源を表す			

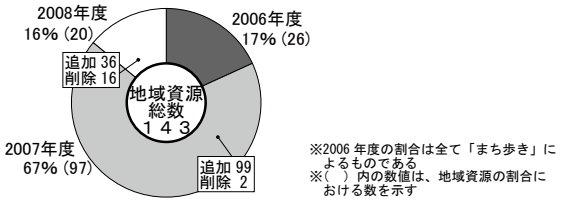
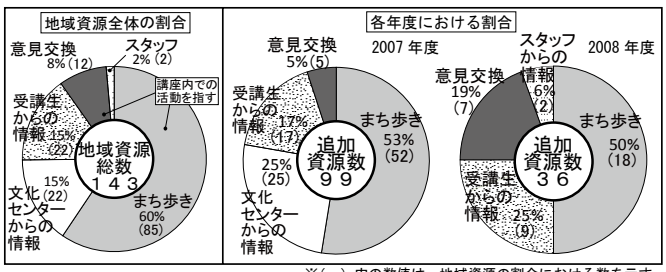


図５　地域資源収集の経過（年度毎の割合）



※（ ）内の数値は、地域資源の割合における数を示す
※2006 年度は、全て「まち歩き」が入手元であった

図６　地域資源の入手元

３－２　地域資源の種別

143 の地域資源の種別を表 4 に示す。店舗関係が 46 と最も多く、次いで工作物が 35、3 番目に寺社関係が 21 と多かった。店舗関係は商店街をもつ 3・5 丁目で多い。工作物は 1・2・6 丁目に多く、これはかつて、工場や倉庫等が多かったことに対応している。寺社関係や碑・像は 3 丁目に多い。講座での活動が主になることで、地域特性にほぼ対応するように地域資源が収集されていたと言える。

３－３　小結

本章では、講座での「まち歩き」活動によって着実に地域資源が収集されていたこと、そして、文化センターの様々な取り組みの蓄積や、日頃亀戸で生活している受講生からの情報が、地域資源の収集に役立っていたことを明らかにした。また、年度を重ねるにつれ、講座での「意見交換」が地域資源の追加や削除に役立っていたことと、地域資源の掲載の確定には、身近な存在ゆえの難しさがあることが分かった。

更に、最終的に「かめたん」に掲載された 143 の地域資源は、亀戸の地区特性を反映していることが分かった。

表４　地域資源の種別

種別＼町丁目	1丁目	2丁目	3丁目	4丁目	5丁目	6丁目	7丁目	8丁目	9丁目	合計
店舗関係	3	6	15	4	7	4	4	2	1	46
工作物	6	8	1	2	2	6	1	4	5	35
寺社関係	0	0	11	6	0	3	0	0	1	21
碑・像	1	3	11	0	0	1	0	0	3	19
学校	1	1	0	2	1	1	0	0	2	8
史跡	1	0	2	0	0	1	0	0	0	4
公園	0	0	0	0	1	0	1	1	1	4
河川	0	1	0	1	0	0	0	0	1	3
その他	0	0	0	0	1	0	1	0	1	3

４章　「かめたん」作成の作業状況

本章では、「かめたん」を作成した 2007、2008 年度の講座における各主体の作業状況をそれぞれ図 7、8 に示す。「かめたん」作成の作業を大きく「地域資源の収集」「地域資源の整理」「かめたんのデザイン」の 3 つの作業項目に分類し、項目毎の各主体の作業回数について分析を行った。本章では、以上のことから各主体の作業特性について明らかにする。

４－１　「地域資源の収集」作業

2007 年度では、大学が 14 と最も多かったが、文化センターが 11、受講生が 10 と、各主体が同程度作業していた。小項目で見ると、「発見・写真撮影」で受講生が 4 と最も多く、「文章検討・推敲」では、大学と文化センターが共に 8 と多かった。「地域資源の収集」作業では、「発見・写真撮影」を中心として受講生が作業していたと言える。

2008 年度では、やはり大学が 14 と最も多かったが、受講生が 8 と次いで多く、受講生の作業量が増加していた。「意見交換」でも大学と同じ 3 と最も作業量が多く、「文章検討・推敲」の作業でも 3 と、2007 年度と比べて作業の比率が高まっていた。

４－２　「地域資源の整理」作業

2007 年度では、文化センターが 5 であるのに対して、大学は 1、受講生は 0 と圧倒的に文化センターの作業量が多かった。「掲載許可」「意見交換」、及び「全体構成の検討」とも講座後に主に作業されていた。

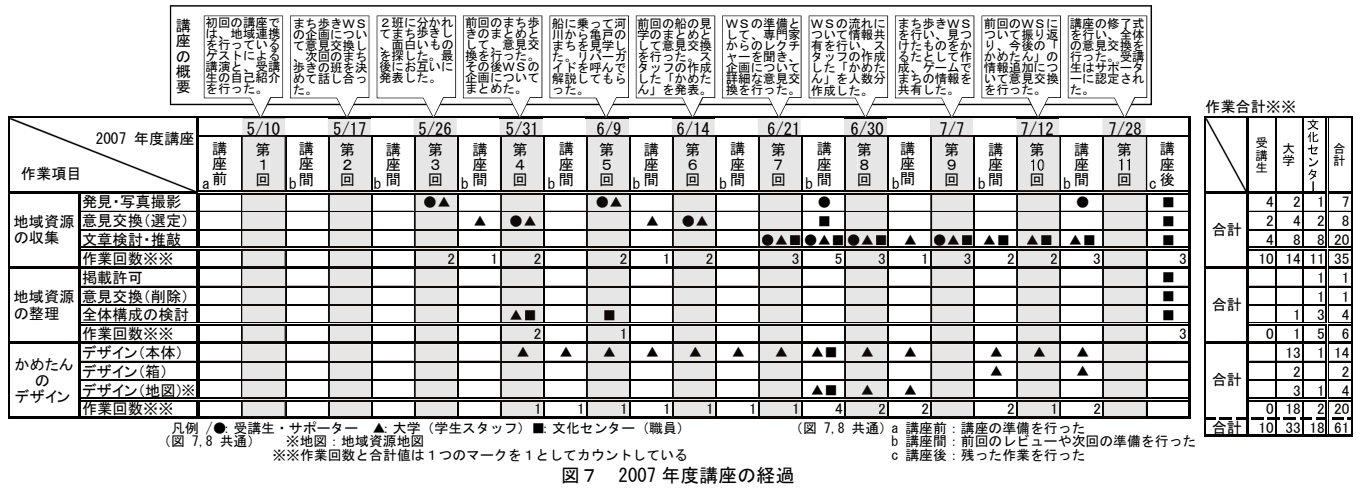


図７　2007 年度講座の経過

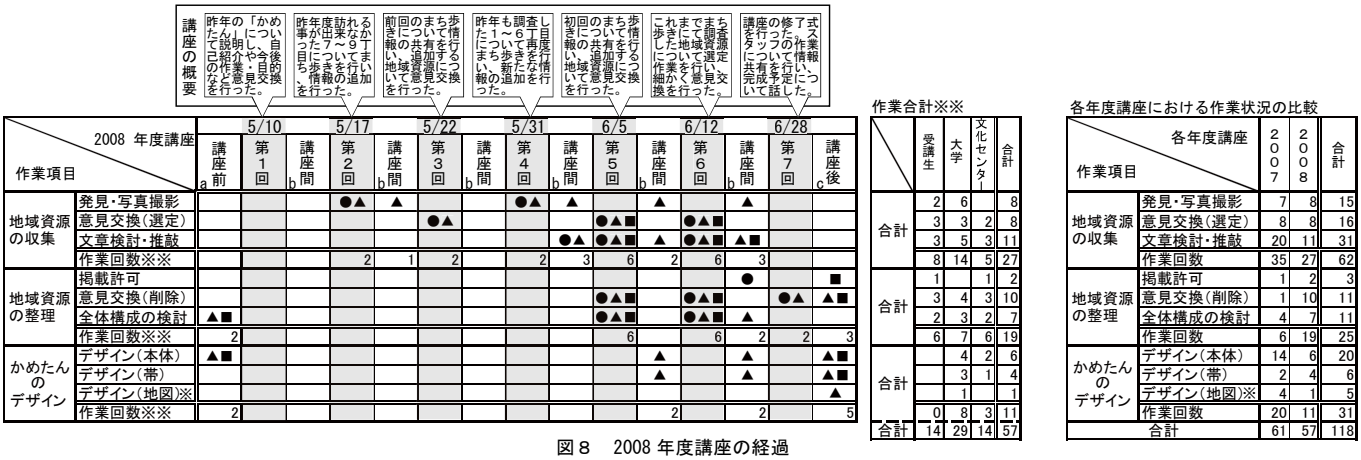


図８　2008 年度講座の経過

2008 年度では、大学が 7、受講生と文化センターが 6 と、各主体が同程度作業していた。「掲載許可」の作業について大学は行っていなかった。「意見交換」と「全体構成の検討」では 3 つの主体が同程度作業していた。

４－３　「かめたんのデザイン」作業

2007 年度では、大学が 18 と圧倒的に作業量が多かった。受講生は 0 であった。文化センターは「かめたん」本体と地図のデザインで 1 ずつ作業していた。

2008 年度では、大学が 8 と圧倒的に作業量が多かった。やはり受講生は 0 であり、文化センターは「かめたん」本体のデザインが 3 と、次いで多かった。

４－４　全体的な作業状況

2007 年度では、大学が 33 と最も多く、次いで文化センターが 18、受講生が 10 であった。2008 年度になると、やはり大学が 29 と最も多いが、受講生が 14 と 2 番目に多くなった。サポーターが入ったこともあり、受講生の作業能力が高まっていたと言える。項目毎に見ると、「地域資源の収集」では、主に大学と受講生が作業し、「地域資源の整理」では、文化センターの作業比率が少し高いものの、3 つの主体がほぼ同程度作業し、「かめたんのデザイン」では、主に大学が作業していたことが分かった。また、文化センターの作業は講座後に多いことが特徴であった。全体的な作業量としては、「地域資源の収集」の作業量が多く、「地域資源の整理」は 2007 年度講座内にはほとんどなかった。

５章　受講生と「かめたん」購入者の評価と意向

受講生 9 名に対しては受講生用アンケート調査[注 10)]、「かめたん」購入者に対しては購入者用アンケート調査[注 11)]をそれぞれ実施した。各アンケートの共通項目は、利用方法、デザインの 2 点である。本章では、その結果をもとに、講座に関する評価、「かめたん」に関する評価と意向、「かめたん」購入者の状況と意向について明らかにする。

５－１　講座に関する受講生の評価

受講生に実施した調査の結果を図 9 に示す。講座の要素として「講座の内容」「講座の進め方」「教材」に関しては、全て「大変良い」または「良い」という評価だった。しかし、「講座の回数」に関しては、「悪い」という評価が 2 あり、これは 2008 年度の講座の回数が 2007 年度に比べて少なかったためと考えられる。また、「講師の指導」「講座運営（職員）」に関しては、「大変良い」が過半数と評価が高かった。「スタッフの進行」「大学との連携」については「大変良い」が 6 以上と非常に高い評価であった。

５－２　受講生と「かめたん」購入者の評価と意向

１）「かめたん」のデザインに関する評価

受講生と「かめたん」購入者に実施した調査の結果を図 10 に示す。「かめたんの大きさ」「写真の大きさ」では、受講生が全員「適当」と回答したのに対し、購入者からは「もっと大きい方がよい」との意見があった。「説明文の内容」では、「もっと減らした方がよい」との意見は全く無く、共に「もっと増やした方がよい」との意見が 2 割程度あった。また、「地域資源の数」では、受講生が 100%「適当」と回答したのに対し、購入者からは約 1 割ずつ「多い」「少ない」の意見があった。しかし、「かめたんの装丁」では、受講生が「良い」と 5 割弱回答したのに対し、それ以上に購入者が「良い」と 5 割以上の回答があった。以上のことから「かめたん」のデザインは、受講生、「かめたん」購入者いずれからも肯定的に評価されていると言える。

２）「かめたん」の利用方法に関する意向

受講生と「かめたん」購入者に実施した調査の結果を図 11 に示す。受講生、購入者いずれも「まちを知る」「まち歩き」が、合計で過半数を占めており、また、「おいしいお店探し」も共に約 1 割を占めている。しかし、受講生の「学校教育」が 19%を占めているのに対し、購入者からは全くなかった。購入者からは「地域の勉強」「地域の資料」として約 3 割の意見があった。

５－３　「かめたん」購入者の状況と意向

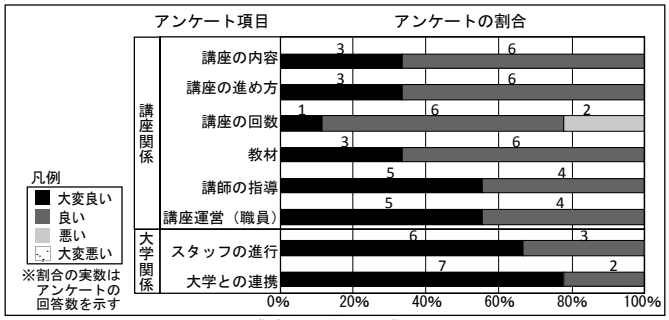


図９　講座に関する受講生の評価

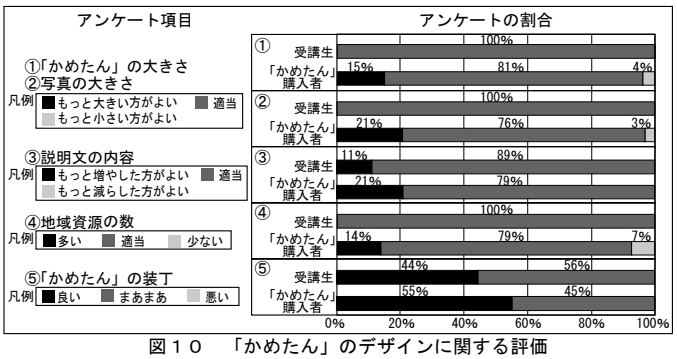
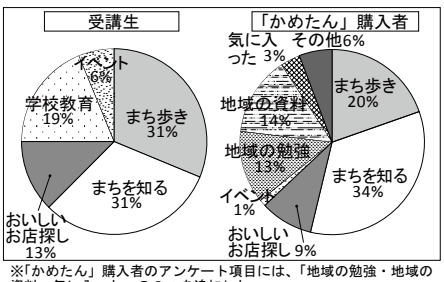


図１０　「かめたん」のデザインに関する評価



※「かめたん」購入者のアンケート項目には、「地域の勉強・地域の資料・気に入った」の３つを追加した

図１１　「かめたん」の利用方法に関する意向

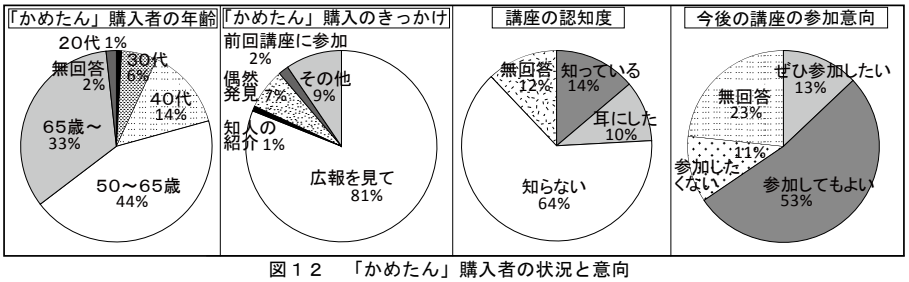


図１２　「かめたん」購入者の状況と意向

「かめたん」購入者に実施した調査の結果を図 12 に示す。

1）「かめたん」購入者の年齢

50 歳以上が全体の約 8 割を占めており、逆に 20 代や 30 代は極端に少ないことが分かった。

2）「かめたん」購入のきっかけ

「広報を見て」が約 8 割を占めている。これは「かめたん」が様々な広報[注 12)]に取り上げられたからである。文化センターは様々なメディアとの関係が日頃からあり、このような地域への情報発信能力が「かめたん」の購入者拡大の大きな要因となっていた。

3）講座の認知度

「かめたん」を作成した今回の講座の認知度は低く、約 6 割が「知らない」であった。また、「知っている」「耳にした」は、全体の約 2 割であった。地域にあまり認知されていないことが分かった。

4）今後の講座への参加意向

「参加してもよい」「ぜひ参加したい」が約 7 割と多い。地域住民の講座への認知度が高まれば、講座への住民のより多くの参加が期待できると言える。

5－4　小結

講座に対する受講生の評価が高いこと、「かめたん」に対する評価が受講生、購入者共に高いこと、「かめたん」の使用に関しては、受講生と購入者の意向に食い違いが見られること、また、文化センターの広報が、購入者を拡大しているものの、若年層が少ないことや、講座に対する認知度が低いということが分かった。

6章　まとめ

本研究は、住民と文化センター、大学等の連携のもとに地域資源を発見・共有する手法を開発、普及することを主眼として、東京都江東区亀戸地区における「かめたん」作成の取り組みを対象として、その取り組みについて報告すると共に、以下のことを明らかにした。

・講座の「まち歩き」によって着実に地域資源が収集できていた。また、年度を重ねるにつれ、講座の「意見交換」が増加し、それによって地域資源が追加されていた。

・身近に存在する地域資源は、受講生の価値観の違い、私有物、消滅などを理由として、地域資源単語帳への掲載の判断が困難であった。これはまた、「かめたん」の今後の改訂作業や、内容の評価・考察が必要であることを示している。

・受講生（住民）、大学、文化センターは、地域資源の収集と整理、「かめたん」のデザインと管理において、図 13 のような手順で作業が行われていた。異なる主体同士が連携することで相互作用を及ぼしながら作業分担を明確化し、「かめたん」が作成された。連携講座の意義と言えよう。

・結果として、作成された「かめたん」は、受講生、購入者のいずれからも高い評価を得ていた。しかし、若者層の購入が少ないことや、講座の認知度が低いことが分かった。

謝辞

本研究を行うにあたり、東京都江東区亀戸文化センターの方々にはアンケート実施にご協力を頂いた。特に職員の村田曜子氏、山崎利樹氏には講座で大変お世話になり、ヒアリング調査にもご協力を頂いた。ここに記して感謝の意を表します。

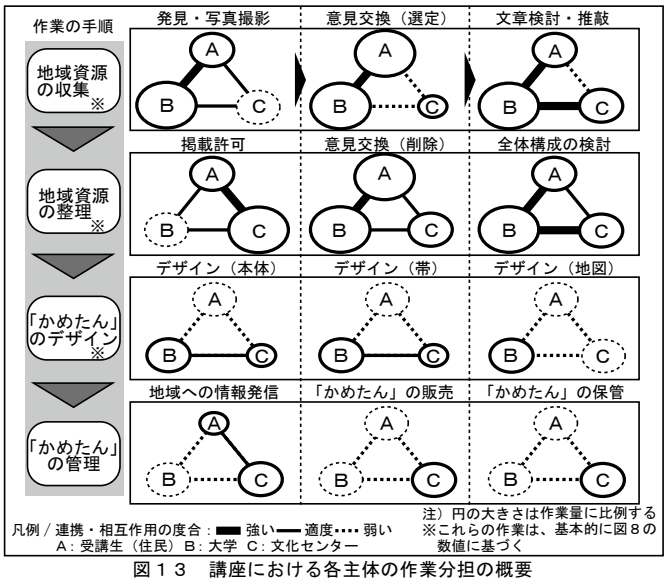


図１３　講座における各主体の作業分担の概要

【注釈】

注 1)　本稿では、地域資源を「身近に存在し、普段見過ごしがちな地域の魅力や特性であり、まちづくり活動の種となるもの」と定義する。参考文献 1) でその評価が論じられている。

注 2)　連携の事例として、2007 年 11 月 15 日に江東区と学校法人芝浦工業大学が、相互発展のため、資源および研究成果等の交流を促進し、教育、文化、産業、まちづくり等の分野で連携協力するための包括協定を締結したことが挙げられる。同時に国立大学法人東京海洋大学との包括協定調印式も開催され、今後三者によるますますの連携が期待されている。

注 3)　錦糸町・亀戸地区は、1982 年に定められた 「東京都長期計画」により「副都心」として東京都から指定され、この「副」を「福」とした「福都心」提案が 2007 年度講座内の企画につながった。

注 4)　講座の記録として、スタッフが毎回議事録をノートにとり、2007・2008 年度共に 1 冊ずつ作成された。

注 5)　「地域資源地図」は、大きさが A3 サイズで、表面は地域資源番号をおとしこんだ亀戸地区の地図である。裏面には、各地域資源の写真が一覧表になっている。

注 6)　2006 年度講座内では、亀戸地区のまちの把握を目的として、受講生が 2 チームに分かれて「まち歩き」を行った。発見したものをまちの情報として大きな地図に書き込む作業を行った。

注 7)　2008 年度講座は、2007 年度講座に引き続き、サポーターを育成するために「まちのサポーターになろう 2」（メインタイトル：亀戸のまちの単語帳“かめたん”を作ろう）として講座を行った。

注 8)　2007 年度講座の展示会「かめたんー亀戸地域資源単語帳ー紹介展」は、亀戸文化センター内カメリアプラザ 1F にて、同年の 8 月 28 日から 9 月 11 日までの間、開催された。

注 9)　江東区亀戸文化センターでは、2001 年 6 月から「カメリアペーパー」という情報誌を毎月 1 回の頻度で発行しており、亀戸での情報を発信している。配布は文化センターや地域の店舗で行われている。また、文化センター等を運営する財団法人「江東区地域振興会」では、江東区全域の情報を載せた「カルチャーナビ KOTO」を発行し、地域に幅広く貢献している。

注 10)　受講生に対するアンケート概要として、調査項目は「かめたん」関係、講座関係、大学関係である。2008 年度講座の受講生 9 人に実施した。

注 11)　購入者に対するアンケート概要として、調査項目は「かめたん」関係、講座関係である。約 200 部を配布し、116 部回収した。回収率は 61%である。

注 12)　2008 年度講座の活動や成果が「こうとう区報」、「読売新聞江東版」「東都よみうり」、「江東ケーブルテレビ」等多くのメディアで取り上げられた。

【参考文献】

1)　後藤春彦ほか 16 名：生活景　身近な景観価値の発見とまちづくり，学芸出版社　2009.3

2)　豊田佳隆、後藤春彦ほか 6 名：まちなみ協議ツールとしての「まちなみカルタ」の開発－群馬県利根郡みなかみ町湯原地区を対象としてー，日本建築学会技術報告集，vol.13，第 26 号，pp.767~771　2007.12

3)　志村秀明、辰巳寛太、佐藤滋：目標空間イメージの編集によるまちづくり協議ツールの開発に関する研究－建替えデザインゲームによる景観形成手法の開発－，日本建築学会計画系論文集，第 558 号，219-226　2002.8

4)　佐藤滋ほか 6 名：まちづくりデザインゲーム，学芸出版社　2005.3

5)　篠部裕：建築デザインかるたを用いた建築デザインの基礎知識の学習方法について，日本建築学会技術報告集，第 12 号，pp.223~226　2001.1

［2009 年 6 月 17 日原稿受理　2009 年 8 月 28 日採用決定］